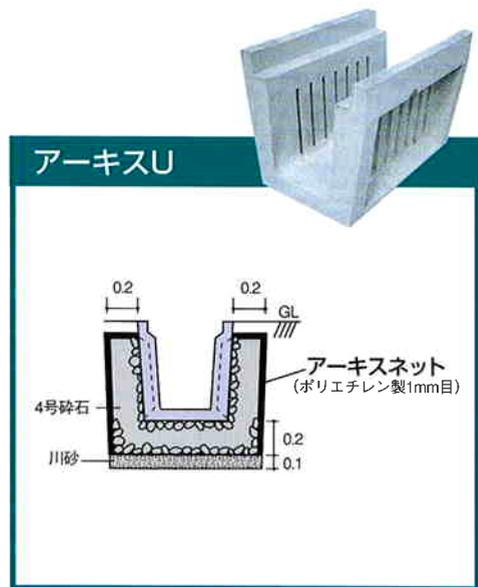
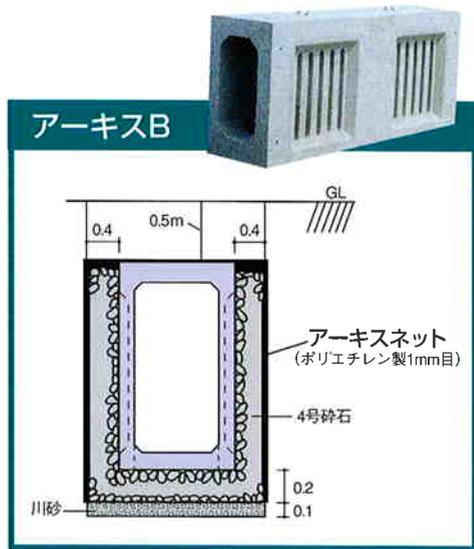
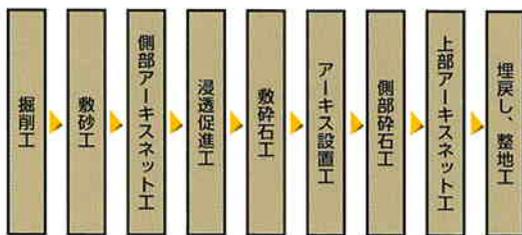


アーキスシステム



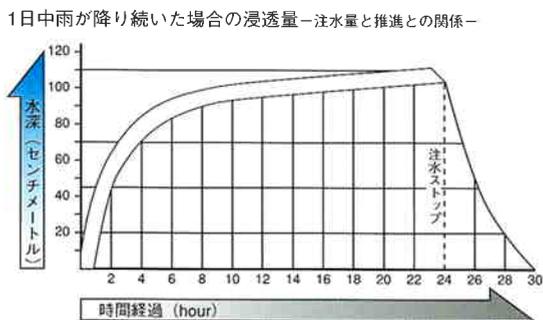
施工



維持・管理

- アーキスシステムは、夾雑物や土砂の流入を防ぐために、沈砂柵を設置します。
- 沈砂柵は内部点検用の人孔、砂溜り及びブスクリーンを設けた特殊製品を用います。
- 浸透能力を維持するため、定期的に沈砂柵の点検・清掃を行います。

アーキスの雨水浸透実験



注水量：1.46ton/m時(浸透量) 地質：関東ローム(多摩丘陵)
 実験日時：1983年12月16日18時開始 実験モデル：Y・H方式(750×1,200mm)
 実験場所：川崎市多摩区東三田1-1-1

- 1.目づまり実験では、底面あたり目づまり物質により浸透能力は上下する。
- 2.目づまり物質投入後は4~5日自然状態におくと回復する。
- 3.雨天時の浸透能力の変動については、ほとんど影響を受けず0~5%の減少である。
- 4.浸透領域についてはアーキス側面から最大約1.5mであった。
- 5.底盤を不透水性にしての実験でも三面浸透時と浸透量の変化は見られない。
- 6.浸透水はすぐ重力水となり地下水位に到達する。

実験値の降水量換算
 実験値浸透量1.46ton/m時は30m²当りに50mm/時の豪雨に相当する浸透量であり、これは断面750×1,200mmのアーキス長さ1mで完全に浸透し、かつ24時間連続して浸透していることを示している。

東京大学名誉教授・明治大学教授 八幡 敏雄、明治大学教授 藤沢 和